

中国語文化研究【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

中国語は古代から現代まで長い歴史を持ち、種々の変化を重ねて発展してきた。そして今日の中国語は、過去のさまざまな変化を引き継いだ結果として、話し言葉としては無数の方言に分かれているという状態である。本講義では、中国語音韻の変遷発展の歴史と現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態をたがいに密接な関係があるものとして概観し、この視点から中国の言語文化の歴史と現状について考察する。

【高度な専門的知識・技能】

中国語音韻の変遷発展の歴史についての専門的知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態を互いに密接な関係があるものとして問題を解決する能力がある。

高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国の言語文化の現状について、自律的に新しい構想に寄与し方向付けを与えることができる。

教科書 /Textbooks

佐藤 昭著『中国語語音史—中古音から現代音まで』白帝社、2002年3月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中国社会科学院語言研究所編『方言調査字表』商務印書館、1988年
- 周振鶴・遊汝傑著『方言與中国文化(第二版)』上海人民出版社、2006年
- 遊汝傑著『漢語方言学教程』上海教育出版社、2004年
- 『中国語言地図集(Language Atlas of China) Longman, Hong Kong, 1987
- 項夢水ほか『漢語方言地理学—入門與実践』中国文史出版社、2005年
- 唐作藩『漢語語音史教程』北京大学出版社、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 オリエンテーション(授業の進め方)
- 第2回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声母の変遷(幫組・端組を中心に) 【中古音】【声母】
- 第3回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声母の変遷(知組・見組を中心に) 【近代音】【声母】
- 第4回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(陰声韻を中心に) 【中古音】【陰声韻】
- 第5回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(陽声韻を中心に) 【中古音】【陽声韻】
- 第6回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(入声韻を中心に) 【中古音】【入声韻】
- 第7回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声調(四声)の変遷 【中古音】【声調】
- 第8回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(北方語を中心に) 【北京語】【中原官話】【西南官話】
- 第9回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(湖南・江西方言を中心に) 【湘語】【カン語】
- 第10回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(広東語を中心に) 【南方方言】【広東語】
- 第11回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(福建語を中心に) 【南方方言】【福建語】
- 第12回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(客家語を中心に) 【南方方言】【客家語】
- 第13回 中国語の方言資料の収集と方言音韻の分析
- 第14回 中国語方言音でよむ中国の古典詩 【読書音】【唐代音】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業態度と討論参加... 50% レポート作成... 50%
シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して成績評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

院・社(前期)において、中国語学研究I(音声学)・中国語学演習I(音声学)を受講して基礎的知識を身につけておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語文化研究 【昼】

キーワード /Keywords

中国語音韻史 中古音 近代音 現代音 中国語方言

思想文化演習 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 他 各研究指導教員

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

地域における市民社会、市民文化の新しい構想・創造に寄与できるよう地域研究、地域政策研究の思想・文化的背景の基礎研究を行う。思想文化領域の担当指導教員が学生自身の自主的な調査研究活動を重視しつつ、教員との議論を通して問題解決に役立つ実践的で柔軟な思考方法を学生に修得させる。このため学位請求論文の作成を視野に入れた講読、調査報告、研究発表などを行わせる。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

論文の構想と作成に必要な思想文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。

《高い問題解決能力と表現力》

思想文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

思想文化の専門分野に関するグローバルな課題を自律的に考究する能力を修得する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習の中で、その都度提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

最初の演習において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習の中で、その都度提示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境研究 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

小さな共同体のサブシステム研究を軸に、環境認知、資源管理、分配と流通など、文化と環境の相互作用について、生態人類学的見地から学ぶ。受講生は関連文献をプレビューし、議論することを通して下記の到達目標を達成し、それぞれの研究課題につなげていく。

- 《高度な専門的知識・技能》
人間社会の地域や文化に応じた多様性を理解し、他者認知に基づく社会性の形成や資源管理などの環境への適応など、人間性の起源に関して考察することができる。
- 《高い問題解決能力と表現力》
フィールドワークによる社会調査によって得られた質的データの分析と考察を通じて、人間社会に関する普遍的な洞察を行うことによって問題を解決することができる。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
地域研究により人間社会の在り方を詳細に分析し、近代の限界とその超克を視野に入れた研究を行うことができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じて適宜選択

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じて適宜選択

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの設定
- 第2回 サブシステム研究の概要
- 第3回 環境人類学の先行研究
- 第4回 文献1の選定
- 第5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第9回 文献2の選定
- 第10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション100%
シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者はプレゼンテーションの準備を入念におこなって下さい
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自集めて下さい

履修上の注意 /Remarks

社会と環境に関わる多くの題材から研究の視野を広げてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人と自然の関わりを深く学びたい人のために

キーワード /Keywords

人類学 生態人類学 環境人類学

多文化コミュニケーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 藤原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

日本語によるコミュニケーションと他言語によるコミュニケーションの異同を、意味論・語用論、特にポライトネス理論や「公的自己」「私的自己」の概念を利用して分析する。
 さらに、近年の生成文法理論における「統語構造地図(cartography of syntactic structures)」によって、日本語・英語をはじめとする諸言語の談話的要素の分布と機能について考える。
 それらの研究を通して、言語と文化の関係について考える。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

言語学およびコミュニケーション論を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、様々な言語およびコミュニケーションに関する現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、言語学およびコミュニケーション論の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

廣瀬 幸生 (他)。2010年。『日本語から見た日本人』 開拓社。

Brown, P. and S. Levinson. 1987. Politeness: Some Universals in Language Usage. Cambridge University Press.

長谷川 信子。2007年。『日本語の主文現象』 ひつじ書房。

その他プリント配布および受講生の興味・希望を考慮して決定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Leech, G. 1974. Semantics: The Study of Meaning. Pelican.

Endo, Y. 2007. Locality and Information Structure: A Cartographic Approach to Japanese. John Benjamins.

井上 和子。2009年。その他授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 序：言語学の研究方法

第2回 廣瀬(他) (2010)(1)【代名詞の使用に関する言語間の変異】

第3回 廣瀬(他) (2010)(2)【伝達と情報】

第4回 廣瀬(他) (2010)(3)【公的自己・私的自己】

第5回 Brown and Levinson (1987)(1)【Gricean theory/The Cooperative Principle/Maxims of Conversation】

第6回 Brown and Levinson (1987)(2)【Face Threatening Acts】

第7回 Brown and Levinson (1987)(3)【Positive Politeness】

第8回 Brown and Levinson (1987)(4)【Negative Politeness】

第9回 長谷川(2007)(1)【統語地図】

第10回 長谷川(2007)(2)【主文現象】

第11回 長谷川(2007)(3)【「は」と「が」】

第12回 長谷川(2007)(4)【格交替】

第13回 長谷川(2007)(5)【モダリティ】

第14回 学生による発表

第15回 まとめ【言語と文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 20% 発表 30% 期末レポート 50%

「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

事後学習：次回に行われる前回の内容についての質疑応答への準備

多文化コミュニケーション研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化交流史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

江戸時代における北部九州は、長崎からの中国・西洋文化の中央への伝播のルートであるとともに、これらをいち早く受容しつつ独自の地域文化を形成してきた。ここでは

1. 前近代から近代にいたるヨーロッパ・アジアの文化交流と日本社会の西欧化
2. 前近代における東アジア世界の外交システムと国家認識

という歴史学の視点から考察したい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

個々の研究に必要な基礎的知識と教養、さらには外国語・くずし字・漢文史料の解読能力を身に付ける。

《高い問題解決能力と表現力》

先行研究の整理を通じて論点を明らかにするとともに、論理的な文章を作成することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究とは一線を画する独創的な視点と具体的な研究テーマから研究に取り組むことができる。

教科書 /Textbooks

プリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松方冬子編『日蘭関係を読み解く 上・下』(臨川書店2015)

見玉幸多『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版1993)

池内敏『大君外交と「武威」』(名古屋大学出版会2006)

荒野泰典編『近世日本の国際関係と言説』(溪水社2017)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オランダ東インド会社と日本
- 3回 蘭学について
- 4回 「南蛮人」「阿蘭陀人」「唐人」
- 5回 近世の国家意識
- 4回～14回 史料購読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業結果のまとめ(50%) 期末レポート(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配られたコピーや文献を読んでおくこと。

事後に授業結果をまとめたレジュメや史料を解読したデータを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

履修する学生は授業の時間と場所を決めるので事前に研究室のメールアドレスに連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

神道の形成をめぐって
 近年、古代史や考古学の成果によって、日本の民族宗教とされる「神道」の形成について、おおよその道筋をつけることが可能になってきた。「神道」は一般に考えられるように、悠久の太古からの固有宗教ではない。しかしながら、神道は仏教の一部門であり、独立した宗教ではなかったという黒田俊雄氏の学説も、宗教の定義のあり方や世界の諸宗教の様態との比較を通じて批判する余地が十分にある。こうした見地を踏まえて原典資料を読みながら神道の形成過程について講義していきたい。

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 日本の思想・宗教文化に関する専門的知識を身につけている。
 《高い問題解決能力と表現力》
 専門的知識を用いて自己の課題を解決する能力を身につけている。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 日本の思想・宗教文化に関する自律的な研究能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高取正男『神道の成立』(平凡社)
- 日本思想大系『律令』(岩波書店)
- 岡田荘司編『日本神道史』(吉川弘文館)
- 『黒田俊雄著作集第2巻顕密体制論』(法蔵館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方について
- 2回 神道の成立をめぐる諸学説の検討
- 3回 律令時代以前の神道
- 4回 律令国家の形成と宗教
- 5回 神祇令と律令祭祀(1)
- 6回 神祇令と律令祭祀(2)
- 7回 神祇令と律令祭祀(3)
- 8回 大陸宗教と神祇祭祀 儒教・皇帝祭祀について
- 9回 大陸宗教と神祇祭祀 道教について
- 10回 大陸宗教と神祇祭祀 仏教について
- 11回 神仏習合の形成
- 12回 神仏習合と中国仏教
- 13回 神仏隔離について
- 14回 本地垂迹説の形成
- 15回 まとめ：神道の形成と展開

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 100%によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配付された資料は下読みしておくこと。
 疑問点があれば、事後でも積極的に質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

神道、神祇令、律令祭祀、神仏習合、皇帝祭祀

英文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

文学批評の実践的訓練。

教科書 /Textbooks

The Collected Poems of W. B. Yeats (Scribner)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

W. B. Yeatsの代表的な詩作品を読む。その際、一つ一つの作品がアイルランド独立運動においてどのような意味を持っているかに留意したい。毎回、一つの詩について実際に批評を書き、参加している全員でその内容について議論する。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 "Pardon, Old Fathers"を読む
- 第3回 "The Wild Swans at Coole"を読む
- 第4回 "An Irish Airman Foresees His Death"を読む
- 第5回 "The Fisherman"を読む
- 第6回 "Easter 1916"を読む
- 第7回 "The Second Coming"を読む
- 第8回 "A Prayer for My Daughter"を読む
- 第9回 "Sailing to Byzantium"を読む
- 第10回 "Among School Children"を読む
- 第11回 "Lapis Lazuli"を読む
- 第12回 "The Circus Animals' Desertion"を読む
- 第13回 "Under Ben Bulbin"を読む
- 第14回 W. B. Yeatsの描いたアイルランドについて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 (毎回の課題) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前】1000～1200字程度のエッセイ
- 【事後】指摘された内容に従ってエッセイの書き直し

履修上の注意 /Remarks

課せられたエッセイを準備してくる。毎回指摘されたテキストを読み、その背景等について十分に調査を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代英文学研究【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

イギリス文学の中でもとりわけ19～20世紀を生きたD.H.ロレンスの作品等を中心に読んでいくことで、想像力と文学の問題について考えます。昨今の日本社会において「絆」という言葉をよく耳にするようになりましたが、それは裏を返せば、様々なもの同士の「絆」が今日喪失しつつあるということに他なりません。

同様の問題意識を20世紀初頭にあって既にロレンスが持っていたことを想起することは決して無駄ではないでしょう。人間がバラバラになってしまったからには「個人は今や愛し合えない」という悲劇的な時代認識に至ったロレンスは、様々な物語の中でいかなるメッセージを投げかけ、どのような救いの道を私たちに提起しているのでしょうか。

ロレンスといえば男女の性愛を描いた作家として名を世に広めた作家ですが、従来の男女関係に焦点を当てた表層的なプロット重視の読みを克服し、作品の象徴など、深層部分に踏み込み、現代社会に訴えるロレンスの問題提起—大地(森)との「絆」と、つながりの(エコロジー的)想像力の回復の必要性—toに耳を傾けることで、ロレンスの現代的意義を探りたいと思います。

授業の到達目標： イギリスの作家ロレンス文学を通じて、現代における様々な問題を認識し、それらについてどのような解決方法があるのかを語れるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

原作を読むことで、内容が理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点から問題を解決し、それを言語化できる。

《高い倫理に基づいた自律的行動力》

研究者としての倫理を備えた上で、受け身の学習ではなく自ら進んで先行研究を調べ、論の中に組み込むことができる。

教科書 /Textbooks

Lady Chatterley's Lover (Cambridge Univ. Press)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ Apocalypse (Cambridge Univ. Press.)

○ Phoenix & Phoenix II (Penguin Books)

その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入、D.H.ロレンスの問題意識について
- 2回 従来のロレンス批評(1)
- 3回 従来のロレンス批評(2)
- 4回 Lady Chatterley's Lover 作品分析(第1パート)
- 5回 Lady Chatterley's Lover 作品分析(第2パート)
- 6回 Lady Chatterley's Lover 作品分析(第3パート)
- 7回 Lady Chatterley's Lover 作品分析(第4パート)
- 8回 Lady Chatterley's Lover 作品分析(第5パート)
- 9回 ロレンスの想像力について(1)(深みの想像力)
- 10回 ロレンスの想像力について(2)(エコロジー的想像力)
- 11回 森とエコロジー的想像力
- 12回 現代と想像力
- 13回 touchとtendernessの役割
- 14回 森への回帰
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(80%)と授業への参加度(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。また、授業の理解に有益な読書は積極的に行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

現代英文学研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「想像力と文学」「絆」「現代人の悲劇」

米文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

論文作成のための詳細な個別指導を継続的に対面形式で行う。個別指導に沿った加筆訂正を原稿に加え続けることにより、論文を無理なく完成させることを目指す。また、論文執筆に資する文献の講読を継続的に行う。

DPに基づく3つの到達目標は以下の通りである。

《高度な専門的知識・技能》

アメリカ文学に関する高度に専門的な知識を備える。

《高い問題解決能力と表現力》

アメリカ文学に関する高度な課題解決能力を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

アメリカ文学研究に関する新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○MLA 英語論文の手引(第5版) (北星堂)

論文中の引用は上記の書物を参照した上で行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文の構想の策定作業 1
- 2回 論文の構想の策定作業 2
- 3回 論文執筆に関連した文献購読 1
- 4回 論文執筆に関連した文献購読 2
- 5回 論文執筆に関連した文献購読 3
- 6回 論文執筆に関連した文献購読 4
- 7回 論文執筆に関連した文献購読 5
- 8回 論文の執筆状況に関する報告 1
- 9回 論文執筆に関する指導 1
- 10回 論文執筆に関連した文献購読 6
- 11回 論文執筆に関連した文献購読 7
- 12回 論文執筆に関連した文献購読 8
- 13回 論文執筆に関連した文献購読 9
- 14回 論文の執筆状況に関する報告 2
- 15回 論文執筆に関する指導 2

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の執筆状況に関する報告50%

文献に関する発表50%

以上により、シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、指定された分量の論文の下書きの執筆を完了しておくこと。また、論文の執筆状況に関して、授業時に報告できるようにしておくこと。授業後は論文のテーマと関連する書籍を可能な限り閲覧した上で、指導に従って論文の下書きに加筆訂正を加えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅「中国小説史略」）の紹介、中国近代白話小説-魯迅「狂人日記」「阿Q正伝」および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯曲が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

《高度な専門的知識・技能》

地域社会研究：社会システム研究に必要な中国文化研究上の基礎的専門的知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

地域社会に関わる現実の諸課題に、身につけた中国文化研究上の専門知識を適用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

地域社会に関わる新しい構想・創造において、中国文化研究をふまえて、新しい方向付けを行うことができる。

教科書 /Textbooks

藤井省三著「魯迅事典」（2002年 三省堂）
「魯迅文集」（筑摩書房）他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木山英雄訳「魯迅の紹興」（岩波書店）
「中国現代文学史」（北京外文出版社）
「中国文学家辞典」（四川文藝出版）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回：中国近代と嚴復『天演論』（トーマス・ハクスレー『進化と倫理』）の影響について
- 第3回：中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回：義和団事件と女性解放運動のパイオニア・秋瑾について
- 第5回：魯迅と故郷紹興および作品集「呐喊」について
- 第6回：魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回：魯迅と辛亥革命について
- 第8回：啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回：五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回：イブセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回：五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回：革命文学論争—「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回：中国左翼作家連盟成立とその活動について
- 第14回：国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習・発表状況...50% レポート...50%
シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

多くの資料を読み、レポートを提出してもらおうのでしっかり準備して授業に臨んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year
単位 /Credits
2単位
学期 /Semester
1学期
授業形態 /Class Format
講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 比較研究に普遍的な位置付けを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。
 《高い問題解決能力と表現力》
 比較文化研究の知識を現実の地域社会に生かすことのできる、優れた課題解決能力を身に着ける。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 比較文化研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An introduction to the historical and cultural legacy of Japan
- 2回 An Introduction to the historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I: Basics
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II: Discussion
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I: Fundamental Values
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II: Patterns of Culture
- 9回 Discussion based on reading materials III: Contemporary Society
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV: Fundamental Values and Culture Clashes
- 12回 Presentations led by students I: Cultural Misunderstandings
- 13回 Discussions based on student topics I: The Ugly Americans and the Ugly Japanese
- 14回 Presentations led by students II: Group vs. Individual
- 15回 Wrap-up and Final Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%
 Final 2000 word paper 50%
 Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

比較文化研究 【昼】

キーワード /Keywords

中国近世近代社会史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

課題「近代中国社会における日本人及び日本人団体」

本科目は19世紀後半から20世紀前半の中国における日本人と日本団体の動向を解明し、近代中国社会における日本の位置を理解することを目的とする。授業では、最初に日清戦争前後からの中国に滞在した日本人・日本人団体に関する研究文献を輪読し、研究史に理解を深める。次いで、中国語・日本語の日本人・日本団体に関する一次史料の輪読を通じ、その実態に接近する。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究文献と一次史料を判読でき、必要な知識を獲得できる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、課題を解決することができる。

教科書 /Textbooks

○現代中国語と日本語の研究文献は授業中に指示する。一次史料は現代中国語ないしは古典中国語、明治～大正期の日本文となるが、これらも授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○堀地 明『明治日本と中国米』(中国書店、2013年、福岡市)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究文献輪読
- 3回 研究文献輪読
- 4回 研究文献輪読
- 5回 研究文献輪読
- 6回 研究文献輪読
- 7回 研究文献輪読
- 8回 一次史料輪読
- 9回 一次史料輪読
- 10回 一次史料輪読
- 11回 一次史料輪読
- 12回 一次史料輪読
- 13回 一次史料輪読
- 14回 一次史料輪読
- 15回 まとめと総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論50%、レポート等50%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された文献をよく読み発言を準備すること。授業後に報告と討論の内容を再度確認すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生は現代中国語と古典中国語の読解力を有していることが必須であり、明治～大正期の日本文が読めることも必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の専門分野に応じて内容は変更することがあります。

キーワード /Keywords

日本文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	日本の思想・宗教文化に関する専門的知識を身につける。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	専門的知識を用いて社会の課題を解決する能力を身につける。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	日本の思想・宗教文化に関する創造的な研究能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本文化研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

神道の形成をめぐる

近年、古代史や考古学の成果によって、日本の民族宗教とされる「神道」の形成について、おおよその道筋をつけることが可能になってきた。「神道」は一般に考えられるように、悠久の太古からの固有宗教ではない。しかしながら、神道は仏教の一部門であり、独立した宗教ではなかったという黒田俊雄氏の学説も、宗教の定義のあり方や世界の諸宗教の様態との比較を通じて批判する余地が十分にある。こうした見地を踏まえて原典資料を読みながら神道の形成過程について講義していきたい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本の思想・宗教文化に関する専門的知識を身につけている。

《高い問題解決能力と表現力》

専門的知識を用いて自己の課題を解決する能力を身につけている。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

日本の思想・宗教文化に関する自律的な研究能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高取正男『神道の成立』(平凡社)

○日本思想大系『律令』(岩波書店)

○岡田荘司編『日本神道史』(吉川弘文館)

○『黒田俊雄著作集第2巻 顕密体制論』(法蔵館)

日本文化研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方について
- 2回 神道の成立をめぐる諸学説の検討
- 3回 律令時代以前の神道
- 4回 律令国家の形成と宗教
- 5回 神祇令と律令祭祀（1）
- 6回 神祇令と律令祭祀（2）
- 7回 神祇令と律令祭祀（3）
- 8回 大陸宗教と神祇祭祀 儒教・皇帝祭祀について
- 9回 大陸宗教と神祇祭祀 道教について
- 10回 大陸宗教と神祇祭祀 仏教について
- 11回 神仏習合の形成
- 12回 神仏習合と中国仏教
- 13回 神仏隔離について
- 14回 本地垂迹説の形成
- 15回 まとめ：神道の形成と展開

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 100%によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配付された資料は下読みしておくこと。
疑問点があれば、事後でも積極的に質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

神道、神祇令、律令祭祀、神仏習合、皇帝祭祀

英文学研究【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	英文学研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	英文学研究の知識を現実生きる上で活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	英文学研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英文学研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

文学批評の実践的訓練。

教科書 /Textbooks

The Collected Poems of W. B. Yeats (Scribner)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

W. B. Yeatsの代表的な詩作品を読む。その際、一つ一つの作品がアイルランド独立運動においてどのような意味を持っているかに留意したい。毎回、一つの詩について実際に批評を書き、参加している全員でその内容について議論する。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 "Pardon, Old Fathers"を読む
- 第3回 "The Wild Swans at Coole"を読む
- 第4回 "An Irish Airman Foresees His Death"を読む
- 第5回 "The Fisherman"を読む
- 第6回 "Easter 1916"を読む
- 第7回 "The Second Coming"を読む
- 第8回 "A Prayer for My Daughter"を読む
- 第9回 "Sailing to Byzantium"を読む
- 第10回 "Among School Children"を読む
- 第11回 "Lapis Lazuli"を読む
- 第12回 "The Circus Animals' Desertion"を読む
- 第13回 "Under Ben Bulbin"を読む
- 第14回 W. B. Yeatsの描いたアイルランドについて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 (毎回の課題) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前】1000～1200字程度のエッセイ
- 【事後】指摘された内容に従ってエッセイの書き直し

英文学研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課せられたエッセイを準備してくる。毎回指摘されたテキストを読み、その背景等について十分に調査を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代英文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える現代英文学に関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	現代英文学の知識を現実の地域社会に活かすことのできる、課題解決能力を身につける。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	地域社会研究・社会システム研究に関わりのある現代英文学の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代英文学研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

イギリス文学の中でもとりわけ19～20世紀を生きたD.H.ロレンスの作品等を中心に読んでいくことで、想像力と文学の問題について考えます。昨今の日本社会において「絆」という言葉をよく耳にするようになりましたが、それは裏を返せば、様々なもの同士の「絆」が今日喪失しつつあるということに他なりません。

同様の問題意識を20世紀初頭にあって既にロレンスが持っていたことを想起することは決して無駄ではないでしょう。人間がバラバラになってしまったからには「個人は今や愛し合えない」という悲劇的な時代認識に至ったロレンスは、様々な物語の中でいかなるメッセージを投げかけ、どのような救いの道を私たちに提起しているのでしょうか。

ロレンスといえば男女の性愛を描いた作家として名を世に広めた作家ですが、従来の男女関係に焦点を当てた表層的なプロット重視の読みを克服し、作品の象徴など、深層部分に踏み込み、現代社会に訴えるロレンスの問題提起—大地(森)との「絆」と、つながりの(エゴロジ—的)想像力の回復の必要性—to 耳を傾けることで、ロレンスの現代的意義を探りたいと思います。

授業の到達目標： イギリスの作家ロレンス文学を通じて、現代における様々な問題を認識し、それらについてどのような解決方法があるのかを語れるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

原作を読むことで、内容が理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点から問題を解決し、それを言語化できる。

《高い倫理に基づいた自律的行動力》

研究者としての倫理を備えた上で、受け身の学習ではなく自ら進んで先行研究を調べ、論の中に組み込むことができる。

教科書 /Textbooks

Lady Chatterley's Lover (Cambridge Univ. Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Apocalypse (Cambridge Univ. Press.)

○ Phoenix & Phoenix II (Penguin Books)

その他、適宜指示します。

現代英文学研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入、D.H.ロレンスの問題意識について
- 2回 従来のロレンス批評 (1)
- 3回 従来のロレンス批評 (2)
- 4回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 1 パート)
- 5回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 2 パート)
- 6回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 3 パート)
- 7回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 4 パート)
- 8回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 5 パート)
- 9回 ロレンスの想像力について (1) (深みの想像力)
- 10回 ロレンスの想像力について (2) (エコロジー的想像力)
- 11回 森とエコロジー的想像力
- 12回 現代と想像力
- 13回 touchとtendernessの役割
- 14回 森への回帰
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (80%) と授業への参加度 (20%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。また、授業の理解に有益な読書は積極的に行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「想像力と文学」「絆」「現代人の悲劇」

中国文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	地域社会研究・社会システム研究に必要な中国文化研究上の基礎的専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○	地域社会に関わる現実の諸課題に、身につけた中国文化研究上の専門知識が適用可能であることを確認する。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	地域社会に関わる新しい構想・創造において、中国文化研究をふまえて、新しい方向付け等に関連づけることが可能であることを確認する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国文化研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅「中国小説史略」）の紹介、中国近代白話小説-魯迅「狂人日記」「阿Q正伝」および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯曲が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

《高度な専門的知識・技能》

地域社会研究・社会システム研究に必要な中国文化研究上の基礎的専門的知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

地域社会に関わる現実の諸課題に、身につけた中国文化研究上の専門知識を適用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

地域社会に関わる新しい構想・創造において、中国文化研究をふまえて、新しい方向付けを行うことができる。

教科書 /Textbooks

藤井省三著「魯迅事典」（2002年 三省堂）

「魯迅文集」（筑摩書房）他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木山英雄訳「魯迅の紹興」（岩波書店）

「中国現代文学史」（北京外文出版社）

「中国文学家辞典」（四川文藝出版）他

中国文化研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回：中国近代と嚴復『天演論』（トーマス・ハクスレー『進化と倫理』）の影響について
- 第3回：中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回：義和団事件と女性解放運動のパイオニア・秋瑾について
- 第5回：魯迅と故郷紹興および作品集「呐喊」について
- 第6回：魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回：魯迅と辛亥革命について
- 第8回：啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回：五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回：イプセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回：五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回：革命文学論争—「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回：中国左翼作家連盟成立とその活動について
- 第14回：国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習・発表状況...50% レポート...50%
シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

多くの資料を読み、レポートを提出してもらおうのでしっかり準備して授業に臨んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	中国語音韻の変遷発展の歴史についての専門的知識を身に付ける。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態をたがいに密接な関係があるものとして捉えることができる。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	中国の言語文化の現状について、新しい構想に寄与し方向付けを与えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語文化研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国語は古代から現代まで長い歴史を持ち、種々の変化を重ねて発展してきた。そして今日の中国語は、過去のさまざまな変化を引き継いだ結果として、話し言葉としては無数の方言に分かれているという状態である。本講義では、中国語音韻の変遷発展の歴史と現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態をたがいに密接な関係があるものとして概観し、この視点から中国の言語文化の歴史と現状について考察する。

【高度な専門的知識・技能】

中国語音韻の変遷発展の歴史についての専門的知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態を互いに密接な関係があるものとして問題を解決する能力がある。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国の言語文化の現状について、自律的に新しい構想に寄与し方向付けを与えることができる。

教科書 /Textbooks

佐藤 昭著『中国語語音史--中古音から現代音まで』 白帝社、2002年3月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中国社会科学院語言研究所編『方言調査字表』 商務印書館、1988年
- 周振鶴・遊汝傑著『方言與中国文化(第二版)』 上海人民出版社、2006年
- 遊汝傑著『漢語方言学教程』 上海教育出版社、2004年
- 『中国語言地図集(Language Atlas of China) Longman, Hong Kong, 1987
- 項夢氷ほか『漢語方言地理学-入門與実践』 中国文史出版社、2005年
- 唐作藩『漢語語音史教程』 北京大学出版社、2011年

中国語文化研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 オリエンテーション(授業の進め方)
- 第2回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声母の変遷(幫組・端組を中心に) 【中古音】【声母】
- 第3回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声母の変遷(知組・見組を中心に) 【近代音】【声母】
- 第4回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(陰声韻を中心に) 【中古音】【陰声韻】
- 第5回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(陽声韻を中心に) 【中古音】【陽声韻】
- 第6回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(入声韻を中心に) 【中古音】【入声韻】
- 第7回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声調(四声)の変遷 【中古音】【声調】
- 第8回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(北方語を中心に) 【北京語】【中原官話】【西南官話】
- 第9回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(湖南・江西方言を中心に) 【湘語】【カン語】
- 第10回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(広東語を中心に) 【南方方言】【広東語】
- 第11回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(福建語を中心に) 【南方方言】【福建語】
- 第12回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(客家語を中心に) 【南方方言】【客家語】
- 第13回 中国語の方言資料の収集と方言音韻の分析
- 第14回 中国語方言音でよむ中国の古典詩 【読書音】【唐代音】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業態度と討論参加... 50% レポート作成... 50%
 シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して成績評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

院・社(前期)において、中国語学研究I(音声学)・中国語学演習I(音声学)を受講して基礎的知識を身につけておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語音韻史 中古音 近代音 現代音 中国語方言

中国近世近代社会史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	中国近世近代の社会に関する専門的知識を習得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○	中国の社会的諸問題を実践的に考察し、その解決方法を考えることができる。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	中国社会のあり方について、斬新で独創的な見解を表明できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国近世近代社会史研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

課題「近代中国社会における日本人及び日本人団体」

本科目は19世紀後半から20世紀前半の中国における日本人と日本団体の動向を解明し、近代中国社会における日本の位置を理解することを目的とする。授業では、最初に日清戦争前後からの中国に滞在した日本人・日本人団体に関する研究文献を輪読し、研究史に理解を深める。次いで、中国語・日本語の日本人・日本団体に関する一次史料の輪読を通じ、その実態に接近する。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究文献と一次史料を判読でき、必要な知識を獲得できる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、課題を解決することができる。

教科書 /Textbooks

○現代中国語と日本語の研究文献は授業中に指示する。一次史料は現代中国語ないしは古典中国語、明治～大正期の日本文となるが、これらも授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○堀地 明『明治日本と中国米』（中国書店、2013年、福岡市）

中国近世近代社会史研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究文献輪読
- 3回 研究文献輪読
- 4回 研究文献輪読
- 5回 研究文献輪読
- 6回 研究文献輪読
- 7回 研究文献輪読
- 8回 一次史料輪読
- 9回 一次史料輪読
- 10回 一次史料輪読
- 11回 一次史料輪読
- 12回 一次史料輪読
- 13回 一次史料輪読
- 14回 一次史料輪読
- 15回 まとめと総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論50%、レポート等50%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された文献をよく読み発言を準備すること。授業後に報告と討論の内容を再度確認すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生は現代中国語と古典中国語の読解力を有していることが必須であり、明治～大正期の日本文が読めることも必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の専門分野に応じて内容は変更することがあります。

キーワード /Keywords

米文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	アメリカ文学に関する高度に専門的な知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	アメリカ文学に関する高度な課題解決能力を身につける。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	アメリカ文学研究に関する新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

米文学研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文作成のための詳細な個別指導を継続的に対面形式で行う。個別指導に沿った加筆訂正を原稿に加え続けることにより、論文を無理なく完成させることを目指す。また、論文執筆に資する文献の講読を継続的に行う。

DPに基づく3つの到達目標は以下の通りである。

《高度な専門的知識・技能》

アメリカ文学に関する高度に専門的な知識を備える。

《高い問題解決能力と表現力》

アメリカ文学に関する高度な課題解決能力を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

アメリカ文学研究に関する新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○MLA 英語論文の手引(第5版) (北星堂)

論文中の引用は上記の書物を参照した上で行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文の構想の策定作業 1
- 2回 論文の構想の策定作業 2
- 3回 論文執筆に関連した文献購読 1
- 4回 論文執筆に関連した文献購読 2
- 5回 論文執筆に関連した文献購読 3
- 6回 論文執筆に関連した文献購読 4
- 7回 論文執筆に関連した文献購読 5
- 8回 論文の執筆状況に関する報告 1
- 9回 論文執筆に関する指導 1
- 10回 論文執筆に関連した文献購読 6
- 11回 論文執筆に関連した文献購読 7
- 12回 論文執筆に関連した文献購読 8
- 13回 論文執筆に関連した文献購読 9
- 14回 論文の執筆状況に関する報告 2
- 15回 論文執筆に関する指導 2

米文学研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の執筆状況に関する報告50%
文献に関する発表50%
以上により、シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、指定された分量の論文の下書きの執筆を完了しておくこと。また、論文の執筆状況に関して、授業時に報告できるようにしておくこと。授業後は論文のテーマと関連する書籍を可能な限り閲覧した上で、指導に従って論文の下書きに加筆訂正を加えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 単位 /Credits: 2単位 学期 /Semester: 1学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	比較文化研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	比較文化研究の知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	比較文化研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較文化研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

比較研究に普遍的な位置付けを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。

《高い問題解決能力と表現力》

比較文化研究の知識を現実の地域社会に生かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

比較文化研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

比較文化研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An introduction to the historical and cultural legacy of Japan
- 2回 An Introduction to the historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I: Basics
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II: Discussion
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I: Fundamental Values
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II:Patterns of Culture
- 9回 Discussion based on reading materials III: Contemporary Society
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV: Fundamental Values and Culture Clashes
- 12回 Presentations led by students I: Cultural Misunderstandings
- 13回 Discussions based on student topics I: The Ugly Americans and the Ugly Japanese
- 14回 Presentations led by students II: Group vs. Individual
- 15回 Wrap-up and Final Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境研究 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	人間社会の地域や文化に応じた多様性を理解し、他者認知に基づく社会性の形成や資源管理などの環境への適応など、人間性の起源に関して考察する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	フィールドワークによる社会調査によって得られた質的データの分析と考察を通じて、人間社会に関する普遍的な洞察をおこなう。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	地域研究により人間社会のあり方を詳細に分析し、近代の限界とその超克を視野に入れた研究につなげる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

人間環境研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

小さな共同体のサブシステム研究を軸に、環境認知、資源管理、分配と流通など、文化と環境の相互作用について、生態人類学的見地から学ぶ。受講生は関連文献をプレビューし、議論することを通して下記の到達目標を達成し、それぞれの研究課題につなげていく。

《高度な専門的知識・技能》

人間社会の地域や文化に応じた多様性を理解し、他者認知に基づく社会性の形成や資源管理などの環境への適応など、人間性の起源に関して考察することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

フィールドワークによる社会調査によって得られた質的データの分析と考察を通じて、人間社会に関する普遍的な洞察を行うことによって問題を解決することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

地域研究により人間社会の在り方を詳細に分析し、近代の限界とその超克を視野に入れた研究を行うことができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じて適宜選択

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じて適宜選択

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの設定
- 第2回 サブシステム研究の概要
- 第3回 環境人類学の先行研究
- 第4回 文献1の選定
- 第5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第9回 文献2の選定
- 第10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第15回 講義のまとめ

人間環境研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション100%
シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者はプレゼンテーションの準備を入念におこなってください
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自集めて下さい

履修上の注意 /Remarks

社会と環境に関わる多くの題材から研究の視野を広げてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人と自然の関わりを深く学びたい人のために

キーワード /Keywords

人類学 生態人類学 環境人類学

多文化コミュニケーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	コミュニケーション研究の基礎となる言語学、特に意味論・語用論・社会言語学・心理言語学及び非言語コミュニケーションに関する専門的知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	日本語/日本文化と他言語/他文化におけるコミュニケーションの形式・内容・方策等の異同や言語と文化の関係について考える能力を身につける。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	言語/文化に対する構造的及び機能的な研究手法を理解し、最適な方法で分析を行い、先行研究の批判的検証に立脚して、新たな視点を提供することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

多文化コミュニケーション研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本語によるコミュニケーションと他言語によるコミュニケーションの異同を、意味論・語用論、特にポライトネス理論や「公的自己」「私的自己」の概念を利用して分析する。
さらに、近年の生成文法理論における「統語構造地図(cartography of syntactic structures)」によって、日本語・英語をはじめとする諸言語の談話的要素の分布と機能について考える。
それらの研究を通して、言語と文化の関係について考える。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

言語学およびコミュニケーション論を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、様々な言語およびコミュニケーションに関する現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、言語学およびコミュニケーション論の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

廣瀬 幸生 (他)。2010年。『日本語から見た日本人』 開拓社。

Brown, P. and S. Levinson. 1987. Politeness: Some Universals in Language Usage. Cambridge University Press.

長谷川 信子。2007年。『日本語の主文現象』 ひつじ書房。

その他プリント配布および受講生の興味・希望を考慮して決定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Leech, G. 1974. Semantics: The Study of Meaning. Pelican.

Endo, Y. 2007. Locality and Information Structure: A Cartographic Approach to Japanese. John Benjamins.

井上 和子。2009年。その他授業時に紹介

多文化コミュニケーション研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の研究方法
- 第2回 廣瀬(他) (2010)(1) 【代名詞の使用に関する言語間の変異】
- 第3回 廣瀬(他) (2010)(2) 【伝達と情報】
- 第4回 廣瀬(他) (2010)(3) 【公的自己・私的自己】
- 第5回 Brown and Levinson (1987)(1) 【Gricean theory/The Cooperative Principle/Maxims of Conversation】
- 第6回 Brown and Levinson (1987)(2) 【Face Threatening Acts】
- 第7回 Brown and Levinson (1987)(3) 【Positive Politeness】
- 第8回 Brown and Levinson (1987)(4) 【Negative Politeness】
- 第9回 長谷川(2007)(1) 【統語地図】
- 第10回 長谷川(2007)(2) 【主文現象】
- 第11回 長谷川(2007)(3) 【「は」と「が」】
- 第12回 長谷川(2007)(4) 【格交替】
- 第13回 長谷川(2007)(5) 【モダリティ】
- 第14回 学生による発表
- 第15回 まとめ【言語と文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 20% 発表 30% 期末レポート 50%
「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
事後学習：次回に行われる前回の内容についての質疑応答への準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化交流史研究【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	個々の研究に必要な日本史・世界史の基礎的知識と教養、さらには外国語・くずし字・漢文史料の解読能力を身に付ける。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	現地調査や地域の研究者との交流を通じて、研究成果を地域社会に還元することができる。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	研究史にこだわらない独創的かつ具体的な視点から研究テーマに取り組むことができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

文化交流史研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

江戸時代における北部九州は、長崎からの中国・西洋文化の中央への伝播のルートであるとともに、これらをいち早く受容しつつ独自の地域文化を形成してきた。ここでは

1. 前近代から近代にいたるヨーロッパ・アジアの文化交流と日本社会の西欧化
2. 前近代における東アジア世界の外交システムと国家認識

という歴史学の視点から考察したい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

個々の研究に必要な基礎的知識と教養、さらには外国語・くずし字・漢文史料の解読能力を身に付ける。

《高い問題解決能力と表現力》

先行研究の整理を通じて論点を明らかにするとともに、論理的な文章を作成することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究とは一線を画する独創的な視点と具体的な研究テーマから研究に取り組むことができる。

教科書 /Textbooks

プリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松方冬子編『日蘭関係を読み解く 上・下』(臨川書店2015)

見玉幸多『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版1993)

池内敏『大君外交と「武威」』(名古屋大学出版会2006)

荒野泰典編『近世日本の国際関係と言説』(渓水社2017)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オランダ東インド会社と日本
- 3回 蘭学について
- 4回 「南蛮人」「阿蘭陀人」「唐人」
- 5回 近世の国家意識
- 4回～14回 史料購読
- 15回 まとめ

文化交流史研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業結果のまとめ (50%) 期末レポート (50%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配られたコピーや文献を読んでおくこと。
事後に授業結果をまとめたレジюмеや史料を解読したデータを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

履修する学生は授業の時間と場所を決めるので事前に研究室のメールアドレスに連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
PHR710S		◎	△	△
科目名		日本文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

神道の形成をめぐって
近年、古代史や考古学の成果によって、日本の民族宗教とされる「神道」の形成について、おおよその道筋をつけることが可能になってきた。「神道」は一般に考えられるように、悠久の太古からの固有宗教ではない。しかしながら、神道は仏教の一部門であり、独立した宗教ではなかったという黒田俊雄氏の学説も、宗教の定義のあり方や世界の諸宗教の様態との比較を通じて批判する余地が十分にある。こうした見地を踏まえて原典資料を読みながら神道の形成過程について講義していきたい。

DPに基づく3つの到達目標
《高度な専門的知識・技能》
日本の思想・宗教文化に関する専門的知識を身につけている。
《高い問題解決能力と表現力》
専門的知識を用いて自己の課題を解決する能力を身につけている。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
日本の思想・宗教文化に関する自律的な研究能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高取正男『神道の成立』（平凡社）
- 日本思想大系『律令』（岩波書店）
- 岡田莊司編『日本神道史』（吉川弘文館）
- 『黒田俊雄著作集第2巻 密体制論』（法蔵館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方について
- 2回 神道の成立をめぐる諸学説の検討
- 3回 律令時代以前の神道
- 4回 律令国家の形成と宗教
- 5回 神祇令と律令祭祀（1）
- 6回 神祇令と律令祭祀（2）
- 7回 神祇令と律令祭祀（3）
- 8回 大陸宗教と神祇祭祀 儒教・皇帝祭祀について
- 9回 大陸宗教と神祇祭祀 道教について
- 10回 大陸宗教と神祇祭祀 仏教について
- 11回 神仏習合の形成
- 12回 神仏習合と中国仏教
- 13回 神仏隔離について
- 14回 本地垂迹説の形成
- 15回 まとめ：神道の形成と展開

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 100%によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

日本文化研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配付された資料は下読みしておくこと。
疑問点があれば、事後でも積極的に質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

神道、神祇令、律令祭祀、神仏習合、皇帝祭祀

英文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT730S	◎	△	△
科目名	英文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

文学批評の実践的訓練。

教科書 /Textbooks

The Collected Poems of W. B. Yeats (Scribner)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

W. B. Yeatsの代表的な詩作品を読む。その際、一つ一つの作品がアイルランド独立運動においてどのような意味を持っているかに留意したい。毎回、一つの詩について実際に批評を書き、参加している全員でその内容について議論する。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 "Pardon, Old Fathers"を読む
- 第3回 "The Wild Swans at Coole"を読む
- 第4回 "An Irish Airman Foresees His Death"を読む
- 第5回 "The Fisherman"を読む
- 第6回 "Easter 1916"を読む
- 第7回 "The Second Coming"を読む
- 第8回 "A Prayer for My Daughter"を読む
- 第9回 "Sailing to Byzantium"を読む
- 第10回 "Among School Children"を読む
- 第11回 "Lapis Lazuli"を読む
- 第12回 "The Circus Animals' Desertion"を読む
- 第13回 "Under Ben Bulbin"を読む
- 第14回 W. B. Yeatsの描いたアイルランドについて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 (毎回の課題) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前】 1000～1200字程度のエッセイ
- 【事後】 指摘された内容に従ってエッセイの書き直し

履修上の注意 /Remarks

課せられたエッセイを準備してくること。毎回指摘されたテキストを読み、その背景等について十分に調査を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文学研究 【昼】

キーワード /Keywords

現代英文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT731S		◎	△	△
科目名	現代英文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

イギリス文学の中でもとりわけ19～20世紀を生きたD.H.ロレンスの作品等を中心に読んでいくことで、想像力と文学の問題について考えます。昨今の日本社会において「絆」という言葉をよく耳にするようになりましたが、それは裏を返せば、様々なもの同士の「絆」が今日喪失しつつあるということに他なりません。

同様の問題意識を20世紀初頭にあつて既にロレンスが持っていたことを想起することは決して無駄ではないでしょう。人間がバラバラになってしまったからには「個人は今や愛し合えない」という悲劇的な時代認識に至ったロレンスは、様々な物語の中でいかなるメッセージを投げかけ、どのような救いの道を私たちに提起しているのでしょうか。

ロレンスといえば男女の性愛を描いた作家として名を世に広めた作家ですが、従来の男女関係に焦点を当てた表層的なプロット重視の読みを克服し、作品の象徴など、深層部分に踏み込み、現代社会に訴えるロレンスの問題提起—大地(森)との「絆」と、つながりの(エコロジー的)想像力の回復の必要性—に耳を傾けることで、ロレンスの現代的意義を探りたいと思います。

授業の到達目標： イギリスの作家ロレンス文学を通じて、現代における様々な問題を認識し、それらについてどのような解決方法があるのかを語れるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

原作を読むことで、内容が理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点から問題を解決し、それを言語化できる。

《高い倫理に基づいた自律的行動力》

研究者としての倫理を備えた上で、受け身の学習ではなく自ら進んで先行研究を調べ、論の中に組み込むことができる。

教科書 /Textbooks

Lady Chatterley's Lover (Cambridge Univ. Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Apocalypse (Cambridge Univ. Press.)

○ Phoenix & Phoenix II (Penguin Books)

その他、適宜指示します。

現代英文学研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入、D.H.ロレンスの問題意識について
- 2回 従来のロレンス批評 (1)
- 3回 従来のロレンス批評 (2)
- 4回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 1 パート)
- 5回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 2 パート)
- 6回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 3 パート)
- 7回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 4 パート)
- 8回 Lady Chatterley's Lover 作品分析 (第 5 パート)
- 9回 ロレンスの想像力について (1) (深みの想像力)
- 10回 ロレンスの想像力について (2) (エコロジー的想像力)
- 11回 森とエコロジー的想像力
- 12回 現代と想像力
- 13回 touchとtendernessの役割
- 14回 森への回帰
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (80%) と授業への参加度 (20%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。また、授業の理解に有益な読書は積極的に行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「想像力と文学」「絆」「現代人の悲劇」

中国文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT750S		◎	△	△
科目名	中国文化研究			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅「中国小説史略」）の紹介、中国近代白話小説-魯迅「狂人日記」「阿Q正伝」および中国に初めてイプセン劇が紹介され、西欧の小説・戯曲が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した茅盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

《高度な専門的知識・技能》

地域社会研究・社会システム研究に必要な中国文化研究上の基礎的専門的知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

地域社会に関わる現実の諸課題に、身につけた中国文化研究上の専門知識を適用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

地域社会に関わる新しい構想・創造において、中国文化研究をふまえて、新しい方向付けを行うことができる。

教科書 /Textbooks

藤井省三著「魯迅事典」（2002年 三省堂）
「魯迅文集」（筑摩書房）他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木山英雄訳「魯迅の紹興」（岩波書店）
「中国現代文学史」（北京外文出版社）
「中国文学家辞典」（四川文藝出版）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回：中国近代と巖復『天演論』（トーマス・ハクスレー『進化と倫理』）の影響について
- 第3回：中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回：義和団事件と女性解放運動のバイオニア・秋瑾について
- 第5回：魯迅と故郷紹興および作品集「呐喊」について
- 第6回：魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回：魯迅と辛亥革命について
- 第8回：啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回：五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回：イプセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回：五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回：革命文学論争—「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回：中国左翼作家連盟成立とその活動について
- 第14回：国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習・発表状況...50% レポート...50%
シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

中国文化研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

多くの資料を読み、レポートを提出してもらっているのでしっかり準備して授業に臨んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN710S		◎	△	△
科目名		中国語文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国語は古代から現代まで長い歴史を持ち、種々の変化を重ねて発展してきた。そして今日の中国語は、過去のさまざまな変化を引き継いだ結果として、話し言葉としては無数の方言に分かれているという状態である。本講義では、中国語音韻の変遷発展の歴史と現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態をたがいに密接な関係があるものとして概観し、この視点から中国の言語文化の歴史と現状について考察する。

【高度な専門的知識・技能】

中国語音韻の変遷発展の歴史についての専門的知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態を互いに密接な関係があるものとして問題を解決する能力がある。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国の言語文化の現状について、自律的に新しい構想に寄与し方向付けを与えることができる。

教科書 /Textbooks

佐藤 昭著『中国語語音史—中古音から現代音まで』白帝社、2002年3月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中国社会科学院語言研究所編『方言調査字表』商務印書館、1988年
- 周振鶴・遊汝傑著『方言與中国文化(第二版)』上海人民出版社、2006年
- 遊汝傑著『漢語方言学教程』上海教育出版社、2004年
- 『中国語言地図集(Language Atlas of China) Longman, Hong Kong, 1987
- 項夢冰ほか『漢語方言地理学—入門與実践』中国文史出版社、2005年
- 唐作藩『漢語語音史教程』北京大学出版社、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 オリエンテーション(授業の進め方)
- 第2回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声母の変遷(幫組・端組を中心に) 【中古音】【声母】
- 第3回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声母の変遷(知組・見組を中心に) 【近代音】【声母】
- 第4回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(陰声韻を中心に) 【中古音】【陰声韻】
- 第5回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(陽声韻を中心に) 【中古音】【陽声韻】
- 第6回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(入声韻を中心に) 【中古音】【入声韻】
- 第7回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声調(四声)の変遷 【中古音】【声調】
- 第8回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(北方語を中心に) 【北京語】【中原官話】【西南官話】
- 第9回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(湖南・江西方言を中心に) 【湘語】【カン語】
- 第10回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(広東語を中心に) 【南方方言】【広東語】
- 第11回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(福建語を中心に) 【南方方言】【福建語】
- 第12回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(客家語を中心に) 【南方方言】【客家語】
- 第13回 中国語の方言資料の収集と方言音韻の分析
- 第14回 中国語方言音でよむ中国の古典詩 【読書音】【唐代音】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業態度と討論参加... 50% レポート作成... 50%
シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して成績評価を行う。

中国語文化研究【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

院・社（前期）において、中国語学研究Ⅰ（音声学）・中国語学演習Ⅰ（音声学）を受講して基礎的知識を身につけておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語音韻史 中古音 近代音 現代音 中国語方言

中国近世近代社会史研究 【昼】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS720S	◎	△	△
科目名	中国近世近代社会史研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

課題「近代中国社会における日本人及び日本人団体」

本科目は19世紀後半から20世紀前半の中国における日本人と日本団体の動向を解明し、近代中国社会における日本の位置を理解することを目的とする。授業では、最初に日清戦争前後からの中国に滞在した日本人・日本人団体に関する研究文献を輪読し、研究史に理解を深める。次いで、中国語・日本語の日本人・日本団体に関する一次史料の輪読を通じ、その実態に接近する。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究文献と一次史料を判読でき、必要な知識を獲得できる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、課題を解決することができる。

教科書 /Textbooks

○現代中国語と日本語の研究文献は授業中に指示する。一次史料は現代中国語ないしは古典中国語、明治～大正期の日本文となるが、これらも授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○堀地 明『明治日本と中国米』（中国書店、2013年、福岡市）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究文献輪読
- 3回 研究文献輪読
- 4回 研究文献輪読
- 5回 研究文献輪読
- 6回 研究文献輪読
- 7回 研究文献輪読
- 8回 一次史料輪読
- 9回 一次史料輪読
- 10回 一次史料輪読
- 11回 一次史料輪読
- 12回 一次史料輪読
- 13回 一次史料輪読
- 14回 一次史料輪読
- 15回 まとめと総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論50%、レポート等50%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された文献をよく読み発言を準備すること。授業後に報告と討論の内容を再度確認すること。

中国近世近代社会史研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講生は現代中国語と古典中国語の読解力を有していることが必須であり、明治～大正期の日本文が読めることも必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の専門分野に応じて内容は変更することがあります。

キーワード /Keywords

米文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT732S	◎	△	△
科目名	米文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文作成のための詳細な個別指導を継続的に対面形式で行う。個別指導に沿った加筆訂正を原稿に加え続けることにより、論文を無理なく完成させることを目指す。また、論文執筆に資する文献の講読を継続的に行う。

DPに基づく3つの到達目標は以下の通りである。

《高度な専門的知識・技能》

アメリカ文学に関する高度に専門的な知識を備える。

《高い問題解決能力と表現力》

アメリカ文学に関する高度な課題解決能力を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

アメリカ文学研究に関する新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○MLA 英語論文の手引(第5版) (北星堂)

論文中の引用は上記の書物を参照した上で行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文の構想の策定作業 1
- 2回 論文の構想の策定作業 2
- 3回 論文執筆に関連した文献購読 1
- 4回 論文執筆に関連した文献購読 2
- 5回 論文執筆に関連した文献購読 3
- 6回 論文執筆に関連した文献購読 4
- 7回 論文執筆に関連した文献購読 5
- 8回 論文の執筆状況に関する報告 1
- 9回 論文執筆に関する指導 1
- 10回 論文執筆に関連した文献購読 6
- 11回 論文執筆に関連した文献購読 7
- 12回 論文執筆に関連した文献購読 8
- 13回 論文執筆に関連した文献購読 9
- 14回 論文の執筆状況に関する報告 2
- 15回 論文執筆に関する指導 2

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の執筆状況に関する報告50%

文献に関する発表50%

以上により、シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、指定された分量の論文の下書きの執筆を完了しておくこと。また、論文の執筆状況に関して、授業時に報告できるようにしておくこと。授業後は論文のテーマと関連する書籍を可能な限り閲覧した上で、指導に従って論文の下書きに加筆訂正を加えること。

米文学研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 単位 /Credits: 2単位 学期 /Semester: 1学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE760S	◎	△	△
科目名	比較文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 比較研究に普遍的な位置付けを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。
 《高い問題解決能力と表現力》
 比較文化研究の知識を現実の地域社会に生かすことのできる、優れた課題解決能力を身に着ける。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 比較文化研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An introduction to the historical and cultural legacy of Japan
- 2回 An Introduction to the historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I: Basics
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II: Discussion
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I: Fundamental Values
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II:Patterns of Culture
- 9回 Discussion based on reading materials III: Contemporary Society
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV: Fundamental Values and Culture Clashes
- 12回 Presentations led by students I: Cultural Misunderstandings
- 13回 Discussions based on student topics I: The Ugly Americans and the Ugly Japanese
- 14回 Presentations led by students II: Group vs. Individual
- 15回 Wrap-up and Final Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

比較文化研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境研究 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ANT710S	◎	△	△
科目名	人間環境研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

小さな共同体のサブシステム研究を軸に、環境認知、資源管理、分配と流通など、文化と環境の相互作用について、生態人類学的見地から学ぶ。受講生は関連文献をプレビューし、議論することを通して下記の到達目標を達成し、それぞれの研究課題につなげていく。

《高度な専門的知識・技能》

人間社会の地域や文化に応じた多様性を理解し、他者認知に基づく社会性の形成や資源管理などの環境への適応など、人間性の起源に関して考察することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

フィールドワークによる社会調査によって得られた質的データの分析と考察を通じて、人間社会に関する普遍的な洞察を行うことによって問題を解決することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

地域研究により人間社会の在り方を詳細に分析し、近代の限界とその超克を視野に入れた研究を行うことができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じて適宜選択

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じて適宜選択

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの設定
- 第2回 サブシステム研究の概要
- 第3回 環境人類学の先行研究
- 第4回 文献1の選定
- 第5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第9回 文献2の選定
- 第10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション100%
シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者はプレゼンテーションの準備を入念におこなって下さい
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自集めて下さい

人間環境研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

社会と環境に関わる多くの題材から研究の視野を広げてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人と自然の関わりを深く学びたい人のために

キーワード /Keywords

人類学 生態人類学 環境人類学

多文化コミュニケーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN711S		◎	△	△
科目名	多文化コミュニケーション研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本語によるコミュニケーションと他言語によるコミュニケーションの異同を、意味論・語用論、特にポライトネス理論や「公的自己」「私的自己」の概念を利用して分析する。
 さらに、近年の生成文法理論における「統語構造地図(cartography of syntactic structures)」によって、日本語・英語をはじめとする諸言語の談話的要素の分布と機能について考える。
 それらの研究を通して、言語と文化の関係について考える。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

言語学およびコミュニケーション論を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、様々な言語およびコミュニケーションに関する現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、言語学およびコミュニケーション論の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

廣瀬 幸生 (他)。2010年。『日本語から見た日本人』 開拓社。

Brown, P. and S. Levinson. 1987. Politeness: Some Universals in Language Usage. Cambridge University Press.

長谷川 信子。2007年。『日本語の主文現象』 ひつじ書房。

その他プリント配布および受講生の興味・希望を考慮して決定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Leech, G. 1974. Semantics: The Study of Meaning. Pelican.

Endo, Y. 2007. Locality and Information Structure: A Cartographic Approach to Japanese. John Benjamins.

井上 和子。2009年。その他授業時に紹介

多文化コミュニケーション研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の研究方法
- 第2回 廣瀬(他) (2010)(1) 【代名詞の使用に関する言語間の変異】
- 第3回 廣瀬(他) (2010)(2) 【伝達と情報】
- 第4回 廣瀬(他) (2010)(3) 【公的自己・私的自己】
- 第5回 Brown and Levinson (1987)(1) 【Gricean theory/The Cooperative Principle/Maxims of Conversation】
- 第6回 Brown and Levinson (1987)(2) 【Face Threatening Acts】
- 第7回 Brown and Levinson (1987)(3) 【Positive Politeness】
- 第8回 Brown and Levinson (1987)(4) 【Negative Politeness】
- 第9回 長谷川(2007)(1) 【統語地図】
- 第10回 長谷川(2007)(2) 【主文現象】
- 第11回 長谷川(2007)(3) 【「は」と「が」】
- 第12回 長谷川(2007)(4) 【格交替】
- 第13回 長谷川(2007)(5) 【モダリティ】
- 第14回 学生による発表
- 第15回 まとめ【言語と文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 20% 発表 30% 期末レポート 50%
「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
事後学習：次回に行われる前回の内容についての質疑応答への準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化交流史研究【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS710S	◎	△	△
科目名	文化交流史研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

江戸時代における北部九州は、長崎からの中国・西洋文化の中央への伝播のルートであるとともに、これらをいち早く受容しつつ独自の地域文化を形成してきた。ここでは

1. 前近代から近代にいたるヨーロッパ・アジアの文化交流と日本社会の西欧化
2. 前近代における東アジア世界の外交システムと国家認識

という歴史学の視点から考察したい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

個々の研究に必要な基礎的知識と教養、さらには外国語・くずし字・漢文史料の解読能力を身に付ける。

《高い問題解決能力と表現力》

先行研究の整理を通じて論点を明らかにするとともに、論理的な文章を作成することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究とは一線を画する独創的な視点と具体的な研究テーマから研究に取り組むことができる。

教科書 /Textbooks

プリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松方冬子編『日蘭関係を読み解く 上・下』(臨川書店2015)

児玉幸多『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版1993)

池内敏『大君外交と「武威」』(名古屋大学出版会2006)

荒野泰典編『近世日本の国際関係と言説』(渓水社2017)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オランダ東インド会社と日本
- 3回 蘭学について
- 4回 「南蛮人」「阿蘭陀人」「唐人」
- 5回 近世の国家意識
- 4回～14回 史料購読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業結果のまとめ(50%) 期末レポート(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配られたコピーや文献を読んでおくこと。

事後に授業結果をまとめたレジュメや史料を解読したデータを作成しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

履修する学生は授業の時間と場所を決めるので事前に研究室のメールアドレスに連絡してください。

文化交流史研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords